

琴平町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成27年10月

琴 平 町

目 次

1章 総合戦略の主旨	1
1.1 目的	1
1.2 位置づけ	1
1.3 計画期間	2
1.4 国の総合戦略	3
1.5 琴平町の関連計画	4
2章 琴平町の現状と課題	5
2.1 現状	5
(1) 位置・交通	5
(2) 自然	5
(3) 産業	6
(4) 町での居住期間	6
(5) 交流人口	7
2.2 課題	8
(1) 人口減少・少子高齢化への対応	8
(2) 人口移動（自然増減・社会増減）に対する対応	9
(3) 産業人口の対策	13
3章 基本目標及び目標値	14
3.1 基本目標	14
3.2 目標値	15
4章 施策の基本的方向と数値目標	17
4.1 施策展開の方向性	17
4.2 基本目標①「地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり」	18
(1) 基本的方向	18
(2) 施策1：地域産業の強化とブランド化の推進	19
(3) 施策2：商店街のにぎわい創出	20
(4) 施策3：企業誘致の推進	20
4.3 基本目標②「にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり」	21
(1) 基本的方向	21
(2) 施策1：琴平町を知ってもらおうきっかけづくり	22
(3) 施策2：魅力ある着地型観光の創出	22
(4) 施策3：移住・定住化の推進	23
4.4 基本目標③「結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり」	24
(1) 基本的方向	24

(2) 施策 1：若者の結婚に向けた支援	25
(3) 施策 2：子育て支援の充実	25
(4) 施策 3：希望が持てる子育て環境の構築	26
4.5 基本目標④「コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み 続けたいまちづくり」	27
(1) 基本的方向	27
(2) 施策 1：快適で利便性の高い地域づくり	28
(3) 施策 2：世代間交流や生きがいのある生活づくり	28
(4) 施策 3：未来に向けた公共施設や公共用地の利活用推進	29
5章 総合戦略の管理	32
5.1 管理の考え方	32
5.2 管理体制	32

1章 総合戦略の主旨

1.1 目的

本町の人口は、琴平町人口ビジョンで示すとおり、昭和30（1955）年の15,046人をピークに減少し続けています。一方で、老年人口（65歳以上）は増加傾向にあり、平成2（1990）年以降は、年少人口（0～14歳）を逆転して多くなっており、平成22（2010）年には、全体の34%を占めるようになっていきます。年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向にあり、平成27（2015）年以降においても減少を続けると想定されています。

人口減少に伴い、地域における消費市場の規模が縮小し、人材不足、景気低迷を生み出すとともに、住民の経済力の低下をもたらす、高齢化の進展も相まって、地域社会の様々な基盤の維持が困難となりつつあります。

このため、本町の特徴を踏まえ、地域特性を活かした本町独自の施策を展開することで、人口減少に歯止めをかけ、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）を防ぎ、地域経済の拡大等により、プラスのサイクルを作ることが重要です。

人口減少を克服し、本町における経済社会の創生を成し遂げるため、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもとづき、琴平町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という）を策定し、国、県、近隣自治体をはじめ、企業や住民とともに、危機感と問題意識を共有して、これら人口、経済、地域社会の課題に対して一体的・持続的に取り組むものです。

1.2 位置づけ

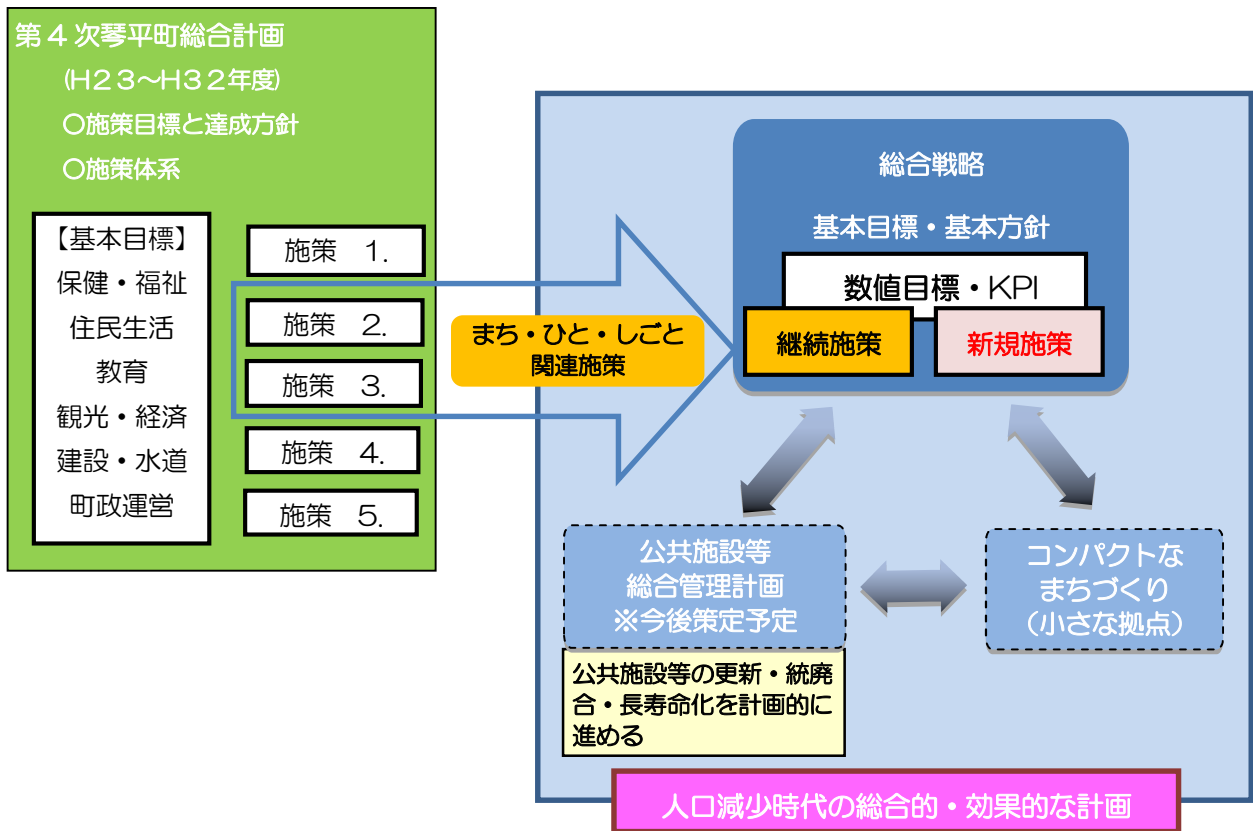
本総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題に対応し、地方創生を成し遂げるため、まち・ひと・しごと創生法に基づき、琴平町人口ビジョンを踏まえ、琴平町のまち・ひと・しごとの創生に向けた基本目標と基本的方向、具体的な施策について、今後5年間の取組内容をまとめたものです。

この総合戦略は、琴平町総合計画における人口減少対策の戦略版として位置づけ、人口減少時代に総合的、効果的に対応し、持続可能で快適な地域づくりを目指すものです。

総合戦略の施策には数値目標や重要業績評価指標（KPI）を定め、政策効果を客観的に検証し、必要な改善を行うこととしています。

よって、今後、社会経済情勢や町民ニーズに柔軟かつ的確に対応できるよう必要に応じ見直しを図ることとします。

第4次琴平町総合計画と総合戦略の関連イメージ

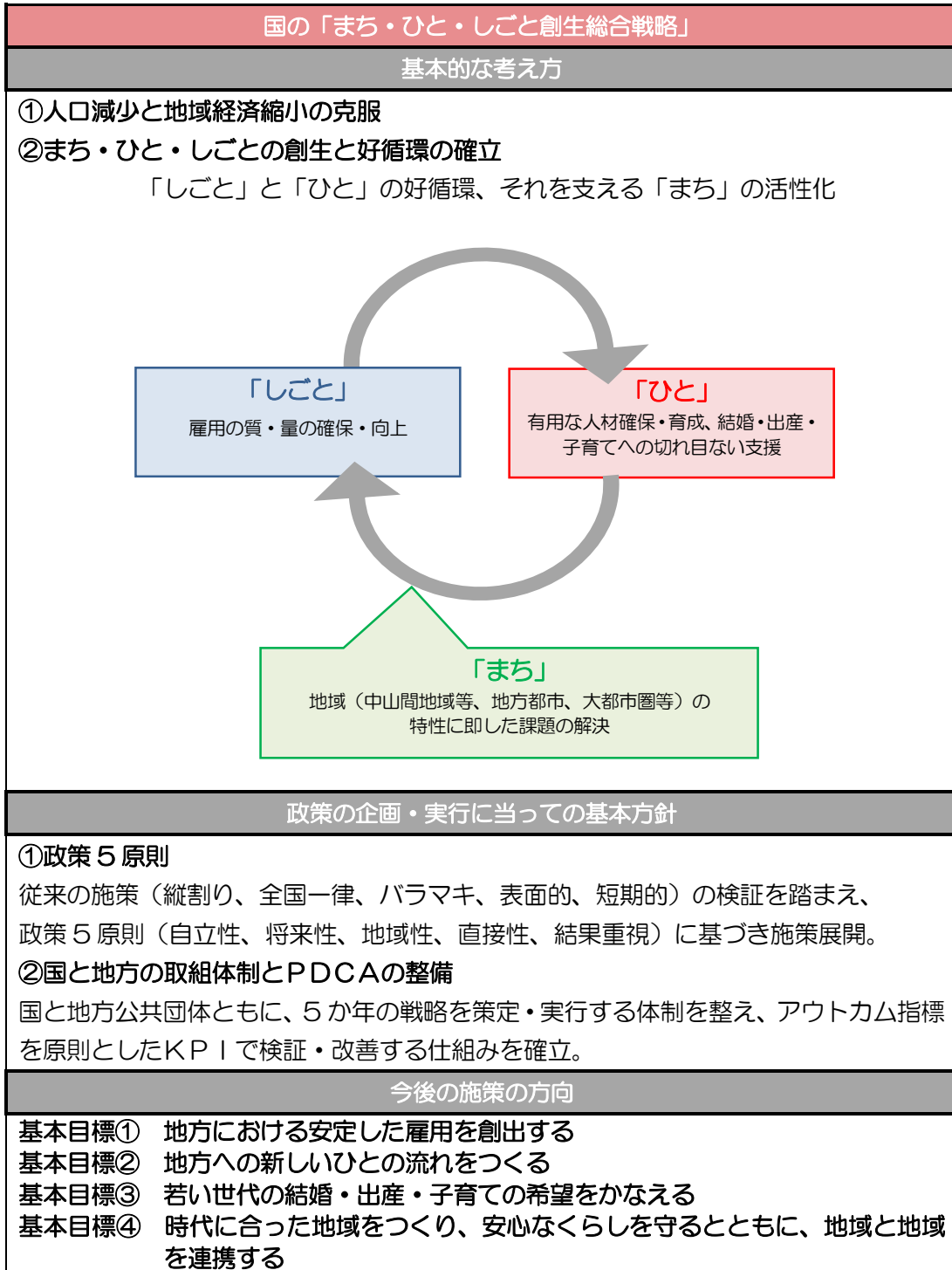


1.3 計画期間

本総合戦略の計画期間は、平成 27 (2015) 年度～平成 31 (2019) 年度の 5 年間とします。

1.4 国の総合戦略

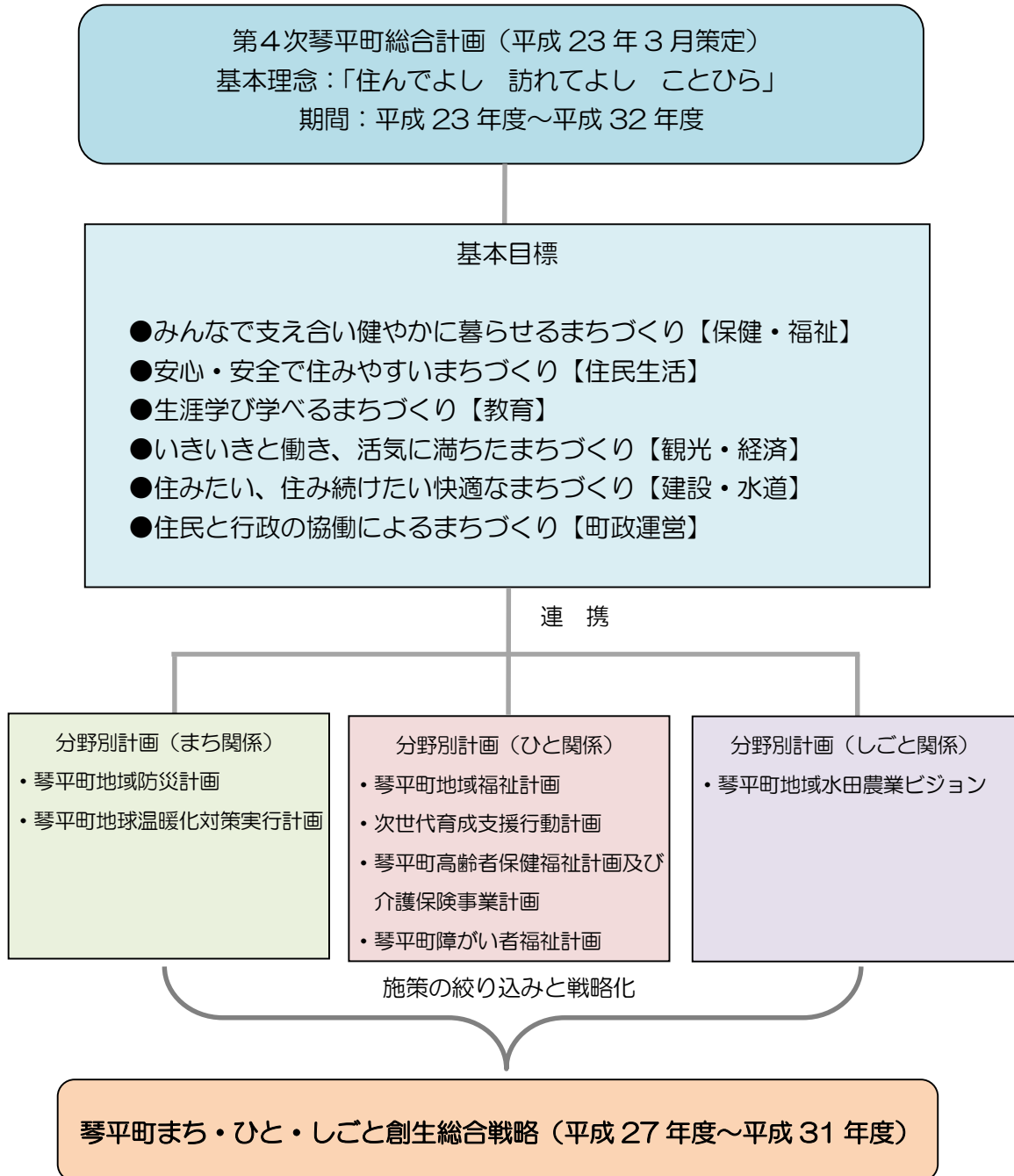
国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことが重要であるとしています。



1.5 琴平町の関連計画

本町の上位計画に位置する総合計画及びまち・ひと・しごとに関連する主だった個々の計画は以下のとおりです。

琴平町の関連計画



2章 琴平町の現状と課題

2.1 現状

(1) 位置・交通

本町は、香川県のほぼ中央に位置する仲多度郡の西部に位置し、東経 133 度 49 分 36 秒、北緯 34 度 12 分 7 秒にあります。町内には、国道 319 号・同 377 号が走り、徳島、高知、愛媛に通じています。高松自動車道善通寺 IC へは国道 319 号線を通して約 6.5Km の位置にあります。公共交通機関としては、JR 土讃線の琴平駅、高松琴平電鉄琴平線の終点駅があります。県庁所在地である高松市の中心部へは自家用車、電車のいずれを使って も 60 分以内で到達可能となっています。

琴平町の位置



(2) 自然

本町の面積は、8.47 平方キロメートル（平成 26 年 10 月 1 日時点）で県下でも 2 番目に小さい値となっています。町域は東西 3.3km、南北 5.3km におよび、地勢は南北に長く、金倉川と土器川の扇状地にあります。町域の西側が、標高 524m、瀬戸内海国立公園・名勝天然記念物に指定されている象頭山の山裾に沿っています。東及び南は、まんのう町、南西は三豊市、北から北西にかけて善通寺市に接しています。

年間を通して温暖な、暮らしやすい気候に恵まれており、四季ごとに桜、つつじ、もみじ等の花や緑の古木に彩られた美しいまちとして親しまれています。

(3) 産業

本町は、「讃岐のこんぴらさん」という愛称で知られる金刀比羅宮を中心に発達した門前町として、多数の観光客を集める観光都市です。

金刀比羅宮は象頭山中腹に位置し、特に海上の安全、五穀豊穡の守護神として全国から根強い大衆信仰を受けてきました。このため、高松街道、丸亀街道、多度津街道、伊予土佐街道、阿波街道など琴平に向かう道は、こんぴら街道と呼ばれ発達してきました。参道には土産物店や旅籠、茶屋がひしめいており、今日に至るまで全国有数の観光地として大きく発展してきました。

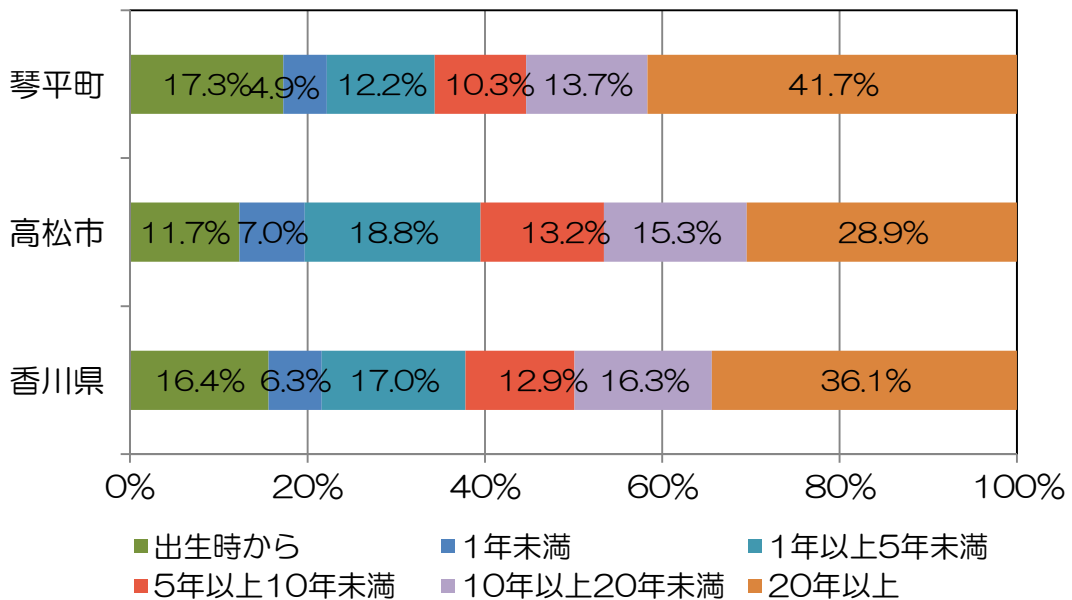
本町の主だった地域産業資源として「レタス」「にんにく」「ナバナ」「清酒」「讃岐一刀彫」等があり、中でも香川県の「にんにく」の生産量は、青森県に次いで全国第2位で、本町は香川県下一の生産地となっています。また、「讃岐一刀彫」は、香川県の伝統工芸品にも認定されており、本町には「讃岐一刀彫」の伝統工芸士が多く存在しています。

(4) 町での居住期間

出生時から現在までの間、本町に住んでいる人は約17.3%で、20年以上もの間、本町に居住している人は約41.7%となっています。

これらの数字は、香川県、高松市と比べても、大きな値となっており、この二つを合計した20年以上の長きにわたり本町に住んでいる人は、59%となっています。

人口における居住期間（※不詳を除く）

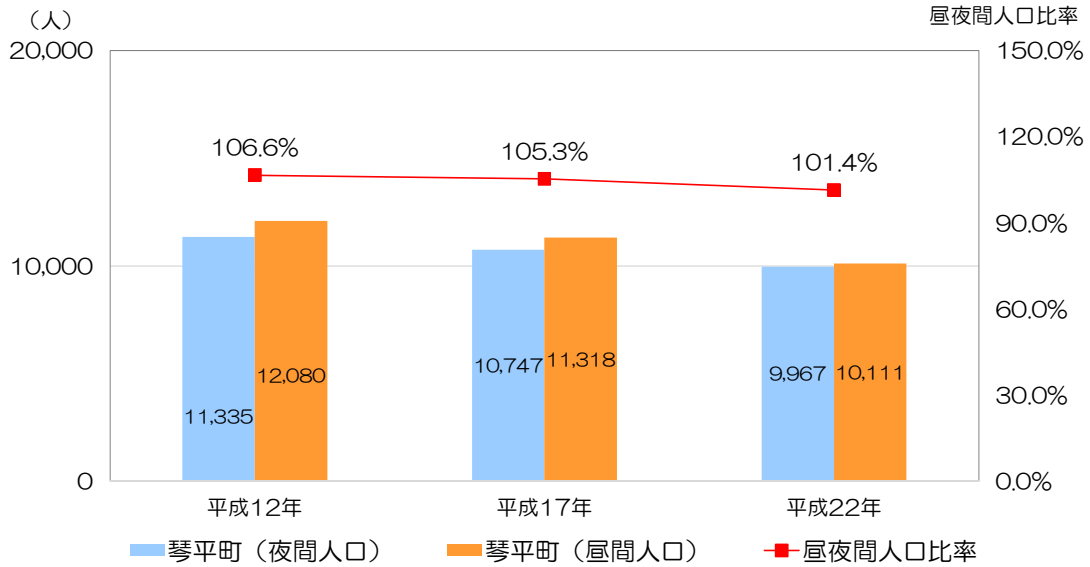


資料：国勢調査（平成22年）

(5) 交流人口

本町の昼夜間人口比率（昼間人口／夜間人口）は、100%を上回っており、昼間は町内で就業・通学している人が多くなっています。しかし、昼夜間人口比率は減少傾向にあり、夜間人口と比べ、昼間に本町で就業・通学している人（昼間人口）が減少していることがうかがえます。

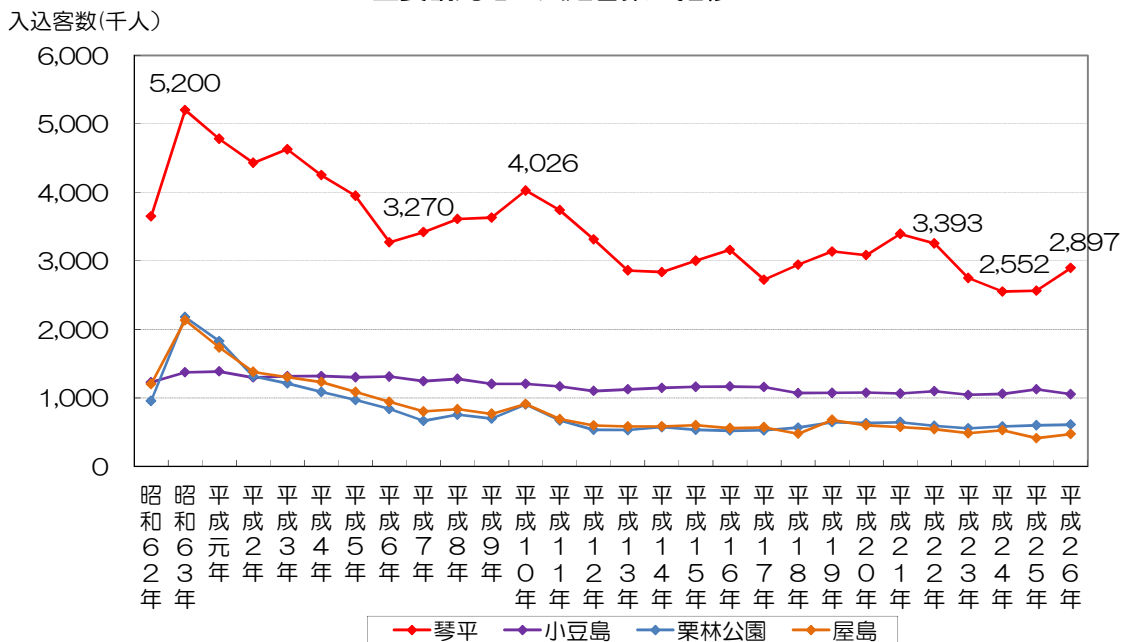
昼夜間人口比率の推移



資料：国勢調査

本町の観光入込客数は、瀬戸大橋が開通した昭和63（1988）年をピークに減少しており、平成24（2012）年には最も低い約255万人となりましたが、近年では約290万人まで回復しています。なお、香川県下の他の主要観光施設と比べると本町の観光入込客数が圧倒的に多くなっています。

主要観光地の入込客数の推移



資料：香川県観光客動態調査報告書

2.2 課題

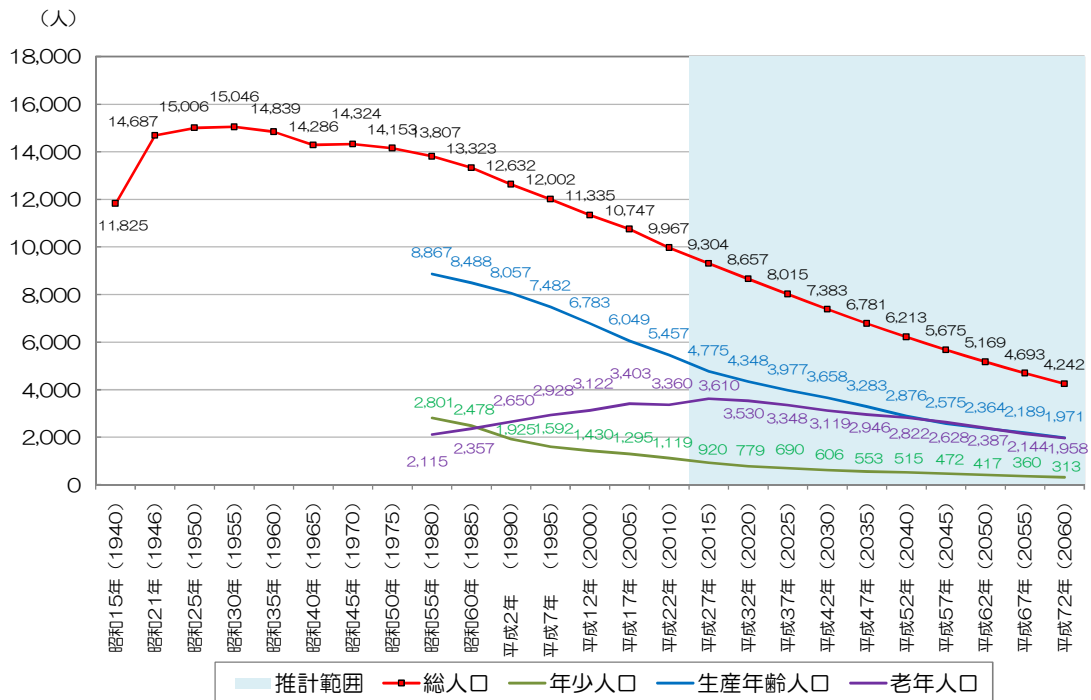
(1) 人口減少・少子高齢化への対応

本町の人口は、平成 22 (2010) 年が 9,967 人で、平成 72 (2060) 年の将来推計人口では 4,242 人となり、平成 22 (2010) 年の半数以下、約 43%になると想定されています。

また、年少人口 (0~14 歳)、生産年齢人口 (15~64 歳) は減少傾向にある一方で、老年人口 (65 歳以上) は増加傾向にあり、平成 72 (2060) 年には、全体の約 46%を占めると想定されています。

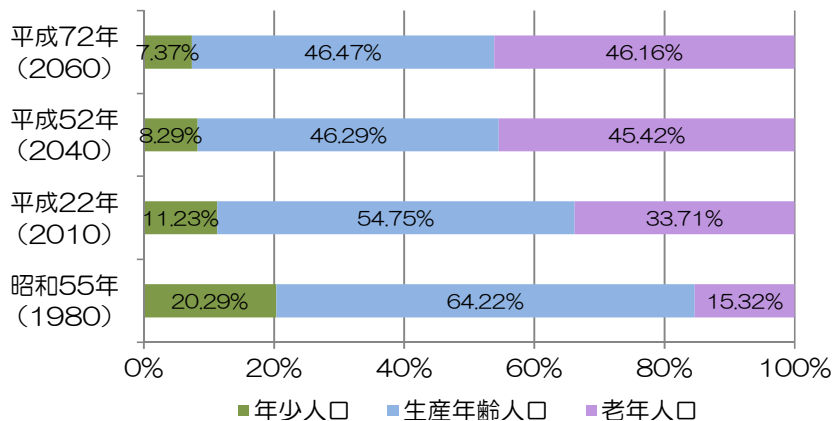
人口減少によって、地域経済の規模縮小、地域の活力が低下するとともに、生産年齢人口 (15~64 歳) の減少は税の減収や地域で支え合う生活の維持が困難になります。今後、人口減少に歯止めをかけるとともに、若い世代の定住者を増やしていくことが重要となります。

人口及び年齢 3 区分別人口の推移



資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所の推計 (平成 25 年 3 月)

年齢 3 区分別人口構成の推移



注: 昭和 55 年、平成 22 年は年齢不詳が存在するため、合計が 100%とならない。

(2) 人口移動（自然増減・社会増減）に対する対応

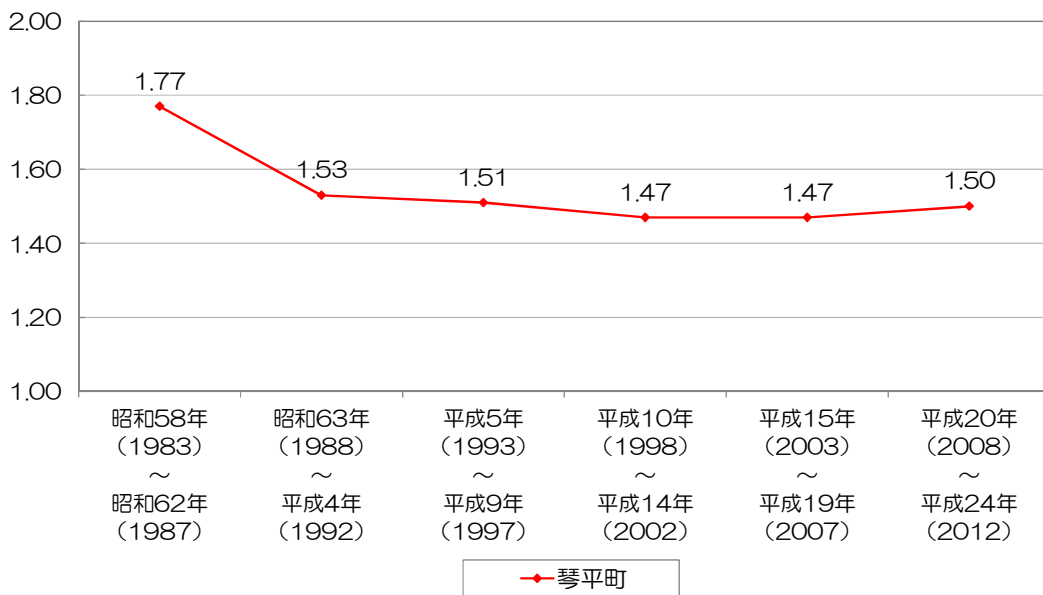
1) 自然増減

本町の出生数は死亡数と比べて少なく、いわゆる自然減の状態が続いており、自然減が年々大きくなる傾向にあります。

出生数に関する本町の合計特殊出生率は、近年では 1.5 程度となっており、昭和 60 年頃が約 1.8 程度であったことを考えると小さい値となっています。

琴平町の合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率



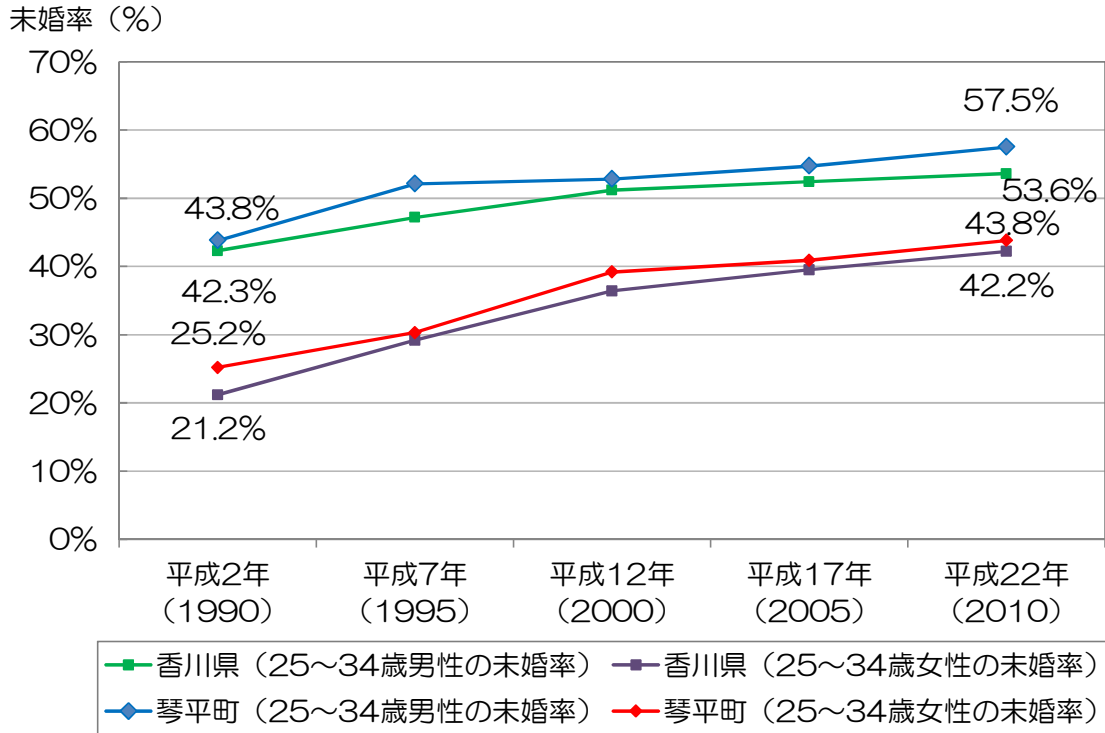
資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

注：合計特殊出生率は、「15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に産むとしたときの子ども数に相当する。

また、25歳から34歳の未婚率は増加を続け、近年では男性が約58%、女性が約44%を超えており、晩婚化が進んでいると考えられます。

出生数の減少は、人口に直接関係することから、若い男女の結婚に向けた支援や子どもを産み育てやすい環境づくりが重要と考えられます。

琴平町、香川県の25～34歳の未婚率の推移



資料：国勢調査

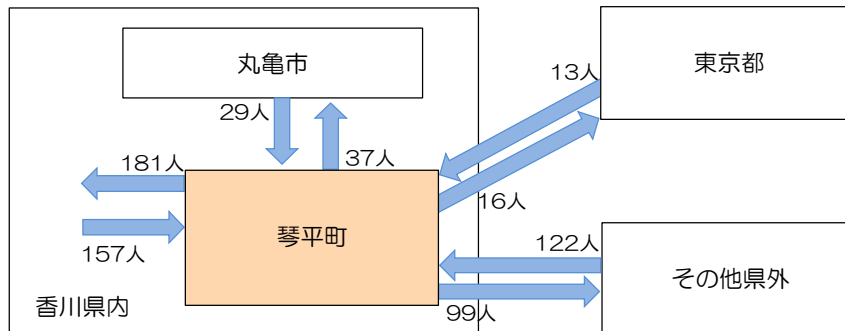
注：25～34歳の結婚したことがない人の割合（配偶者関係不詳を除く）。

2) 社会増減

平成26年における本町の移動状況をみると、転入数が321人、転出数が333人となっており、12人の転出超過となっています。

県外からの転入では、四国内の徳島県、愛媛県、高知県や大阪府、兵庫県等の関西圏からの転入が多くなっています。

琴平町の転入・転出の状況（平成26年）



単位：人

	転入数	転出数	純移動数
丸亀市	29	37	-8
その他県内	157	181	-24
東京都	13	16	-3
その他県外	122	99	23
合計	321	333	-12

資料：住民基本台帳人口移動報告（平成26年）

転入元・転出先の内訳（平成26年）

単位：人

香川県内	転入数	転出数	香川県外	転入数	転出数
高松市	33	***	東京都	13	16
丸亀市	29	37	兵庫県	10	***
坂出市	***	10	徳島県	12	***
善通寺市	50	***	愛媛県	15	10
観音寺市	11	12	高知県	19	***
三豊市	11	***	福岡県	***	10
宇多津町	***	11	その他の県	66	79
まんのう町	29	***			
その他の市町村	23	148			

資料：住民基本台帳人口移動報告（平成26年）

注：***は、10人未満のため「その他の市町村」または「その他の県」に含まれる。

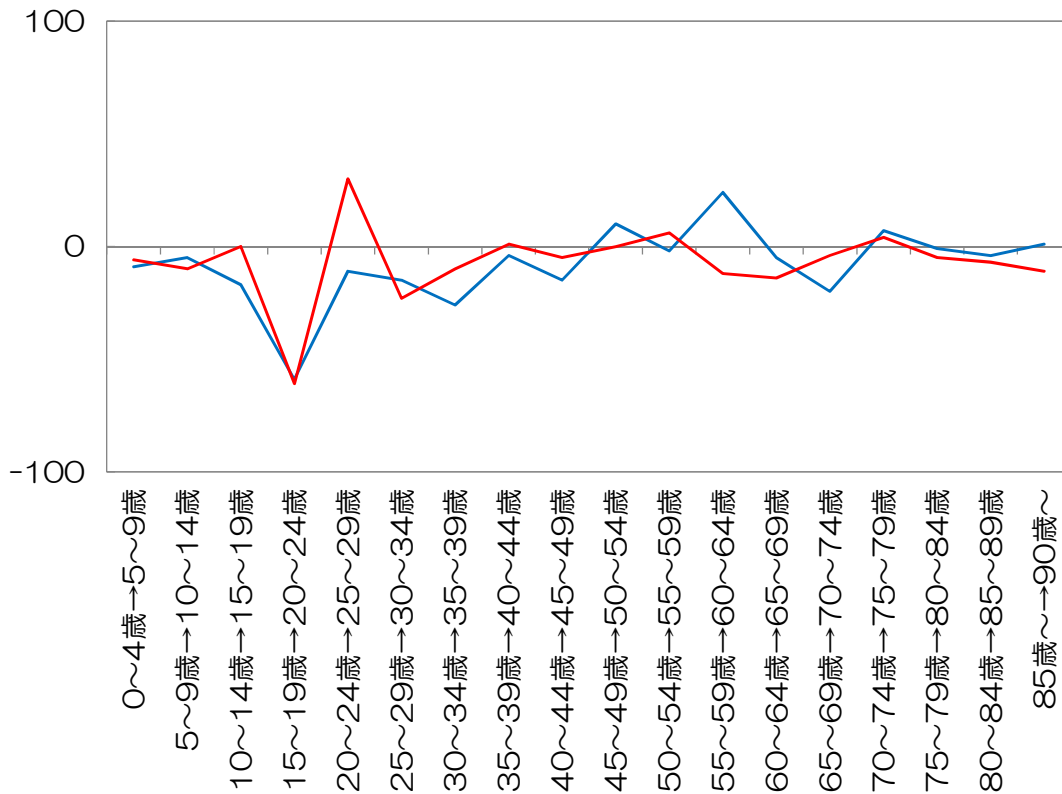
また、最近の年齢別の移動状況をみると、大きく転出超過となっているのは、男性では15～19歳、30～34歳、女性では15～19歳、25～29歳の年代です。

このまま転出超過が続くと、総人口の減少が進むとともに、特に、若年女性の減少は、出生率の低下による自然減につながり、総人口の減少に拍車をかけることが懸念されます。

このため、人口移動率の縮小を図るとともに、特に若年層の定着やUJターンにより、地元定着や地元回帰を図ることが重要と考えられます。

平成17(2005)年→平成22(2010)年の年齢階級別の人口移動(社会移動)

純移動数(人)



—平成17年(2005)→平成22年(2010) (男)
 —平成17年(2005)→平成22年(2010) (女)

資料：地域経済分析システム (RESAS)

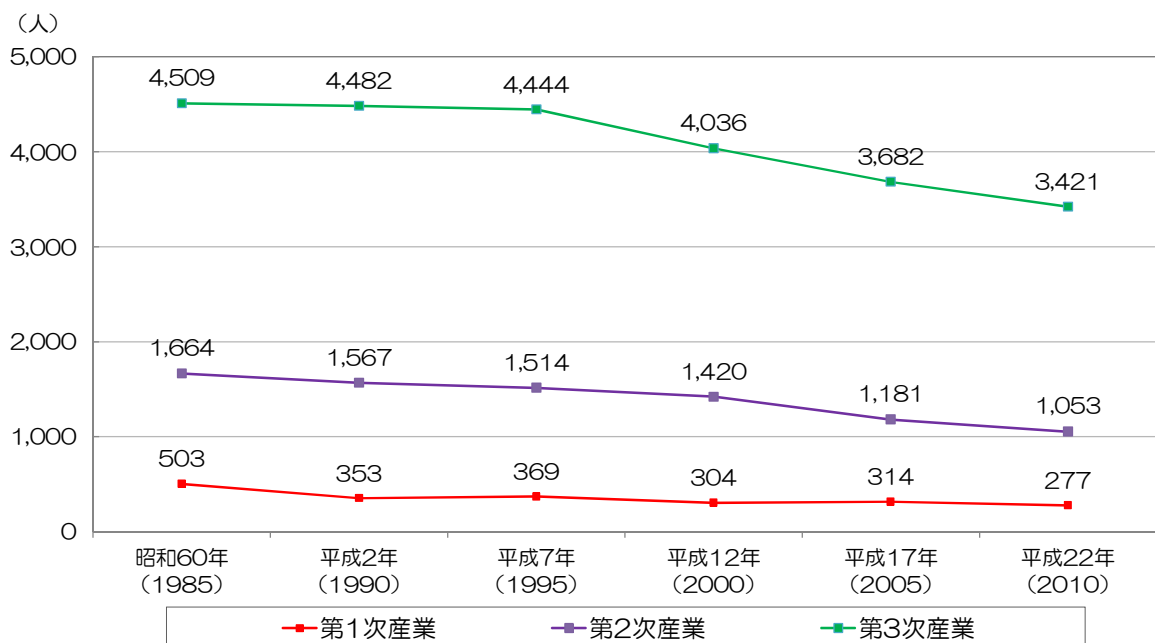
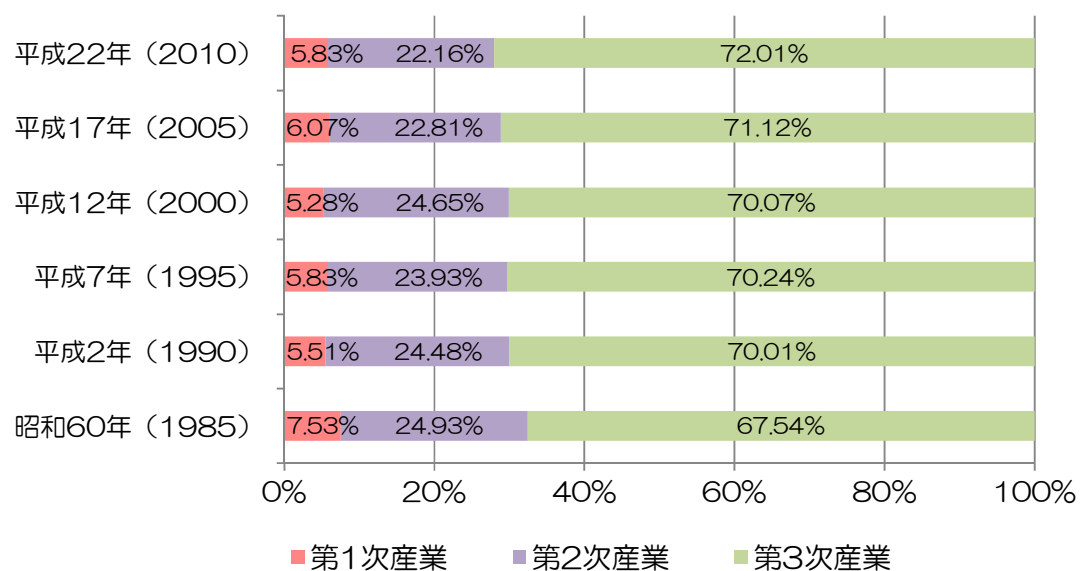
(3) 産業人口の対策

平成 22 (2010) 年における本町の産業別就業人口は、第 3 次産業が最も多く、全体の約 72%を占め、次いで第 2 次産業が約 22%となっています。

産業人口は全体的に減少傾向にあり、第 1 次および第 2 次産業の減少割合が大きくなっています。

就業人口の減少は、地域産業の衰退や事業後継者不足による地場産業の廃業につながり、人口減少と経済縮小の負のスパイラルに至る恐れがあることから、地場産業を活かした就業機会の確保や魅力的な職業の創出などにより、労働力人口を確保し、産業人口の減少に歯止めをかけることが重要であると考えられます。

産業別就業人口及び人口構成 (15 歳以上)



資料：国勢調査

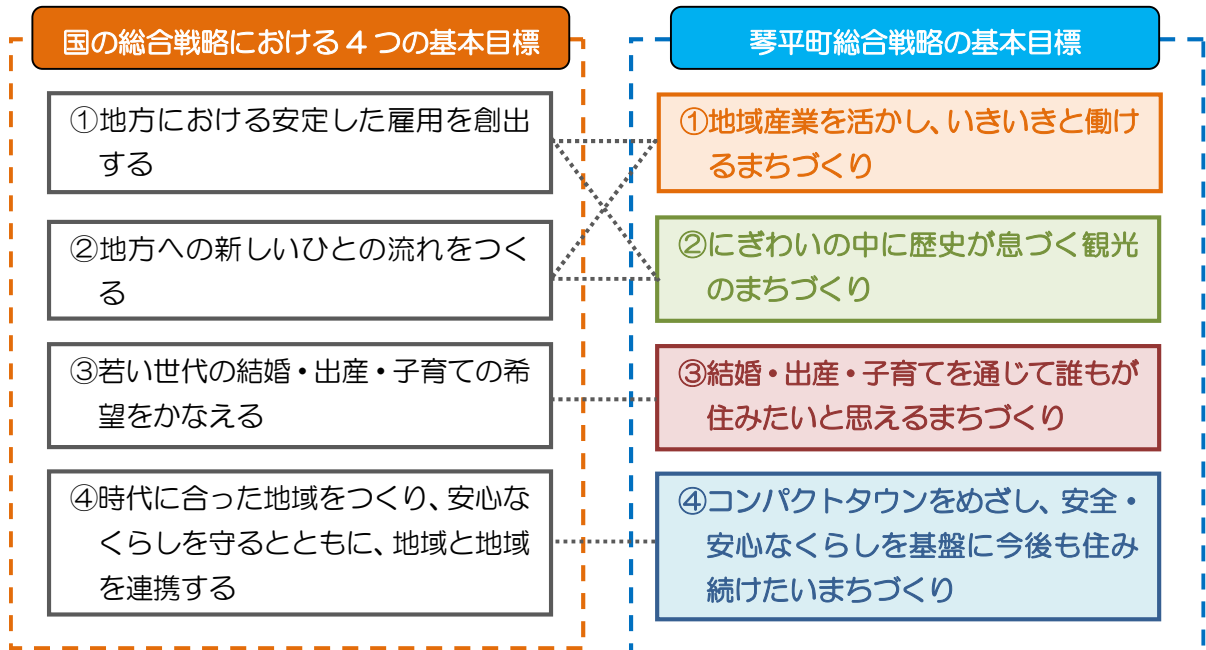
3章 基本目標及び目標値

3.1 基本目標

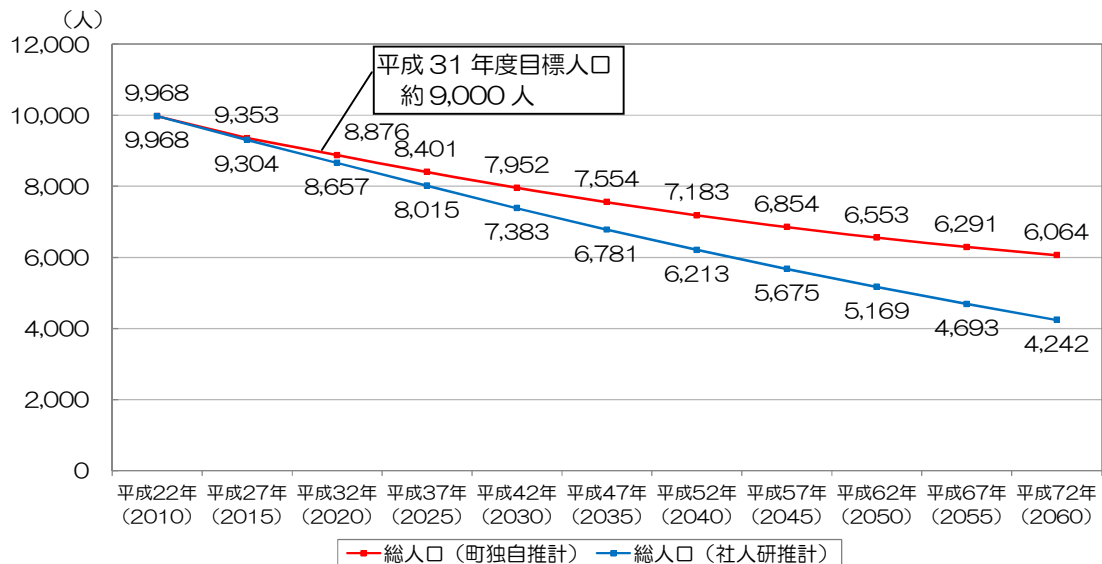
本町の総人口は、平成22年では9,967人と過去5年間で780人減少しました。本町への転入は、転出を下回っており、近年では転入数は少し増加していますが、転出超過の傾向は続いています。また、出生数は死亡数と比べて少なく、出生数は減少傾向にあります。

そのため、本町への新たな転入の流れを創出し、また、出産・子育てを支援することによって、平成31年度の将来目標人口は、約9,000人とします。

この将来目標人口を確保するために本総合戦略の基本目標は、国の4つの基本目標を踏まえ、第4次琴平町総合計画における基本目標とも整合を図りながら、以下のように設定します。



人口の将来展望



3.2 目標値

●基本目標 1：地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり

琴平町が人々の生活の場として持続可能な成長を遂げていくためには、日々の生活を支える仕事や産業が不可欠です。

そのため、これまで町の発展を支えてきた観光を中心とするサービス業等をいっそう強化するとともに、既存企業の維持発展を図りつつ、地域産業を活かした地域ブランドの確立、さらには新規創業による新産業の創造や企業誘致などを目指し、「地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり」を基本目標とします。

全国的に存在感のある既存の観光名所を核として活かし、安定したしごとを創造していくため、基本目標の達成度の目安となる目標値を以下のように設定して、その達成に向けて努力していきます。

基本目標 1：地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり

数値目標	目標値	基準値
就業者を増加させる	5,000人（H32）	4,786人（H22 国調）

（数値目標の説明）

- ・就業者：国勢調査による就業者

●基本目標 2：にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり

琴平町には、金刀比羅宮という全国的に知名度のある観光地があり、年間数百万人の観光客が訪れているとはいえ、地域特性や住環境などは、地域住民には理解されていても町外の人々には十分知られているとは言えません。今後、特に県外から琴平町へ移住してもらうためには、こうした地域の魅力を町外に向かって情報発信していくとともに、住民自身がこの町に生まれ住んでよかったと思えるような居住環境の形成・まちづくりをさらに進めていくことが大切です。その際、金刀比羅宮のおかげで発展してきた町の文脈を大切に、未来につないでいくことを方向性の軸とします。

そのため基本目標を「にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり」とし、その達成度の目安となる目標値を以下のように設定して、その達成に向けて努力していきます。

基本目標 2：にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり

数値目標	目標値	基準値
平成 31 年に 1 年間の転入と転出の差（社会増減）を均衡させる	±0人（H31）	▲12人（H26）

（数値目標の説明）

- ・転入と転出：住民基本台帳ベースの社会流出（転出）と社会流入（転入）。

●基本目標3：結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり

少子化の進展は地域コミュニティの活力を奪うだけではなく、将来における町の存続そのものにも大きな影を落とします。

若者が新たな未来に向け、結婚への第一歩となるための環境づくりや子どもを産み育てたいと願う人々に対して、その願いのもとに力強い未来が描けるような支援を行います。具体的には、周産期・保育、仕事との両立（ワーク・ライフ・バランス）などの面での困難を解消し、安心して子育てできる環境を提供していきます。そのための基本目標を「結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり」とし、その達成度の目安となる目標値を以下のように設定し、その達成に向けて努力していきます。

基本目標3：結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり

数値目標	目標値	基準値
合計特殊出生率を上昇させる	1.60 (H31)	1.50 (H20~H24)

(数値目標の説明)

- ・合計特殊出生率：「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数。

●基本目標4：コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み続けたいまちづくり

国の傾向と同様に、琴平町においても高齢者の人数や割合は増加しています。しかし、高齢者が生きがいを持って働き続けられる就労機会は不足しており、福祉や介護サービスも十分なものとはいえません。

また、若者から「住み続けたい」と選ばれるまちであるためには、自分の生まれ育った地域の魅力や歴史等を大切にす地元愛を育てていくことが必要です。

高齢化の時代に合った、安心して生きがいのある暮らしが実現できる環境づくりや、子どものころから地域の人々と触れ合い、地域を深く知る機会を提供していくため、基本目標を「コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み続けたいまちづくり」とし、その達成度の目安となる目標値を以下のように設定して、その達成に向けて努力していきます。

基本目標4：コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み続けたいまちづくり

数値目標	目標値	基準値
琴平町に住み続けたいと思う人の割合を上昇させる	65% (H31)	57.9% (H22)

(数値目標の説明)

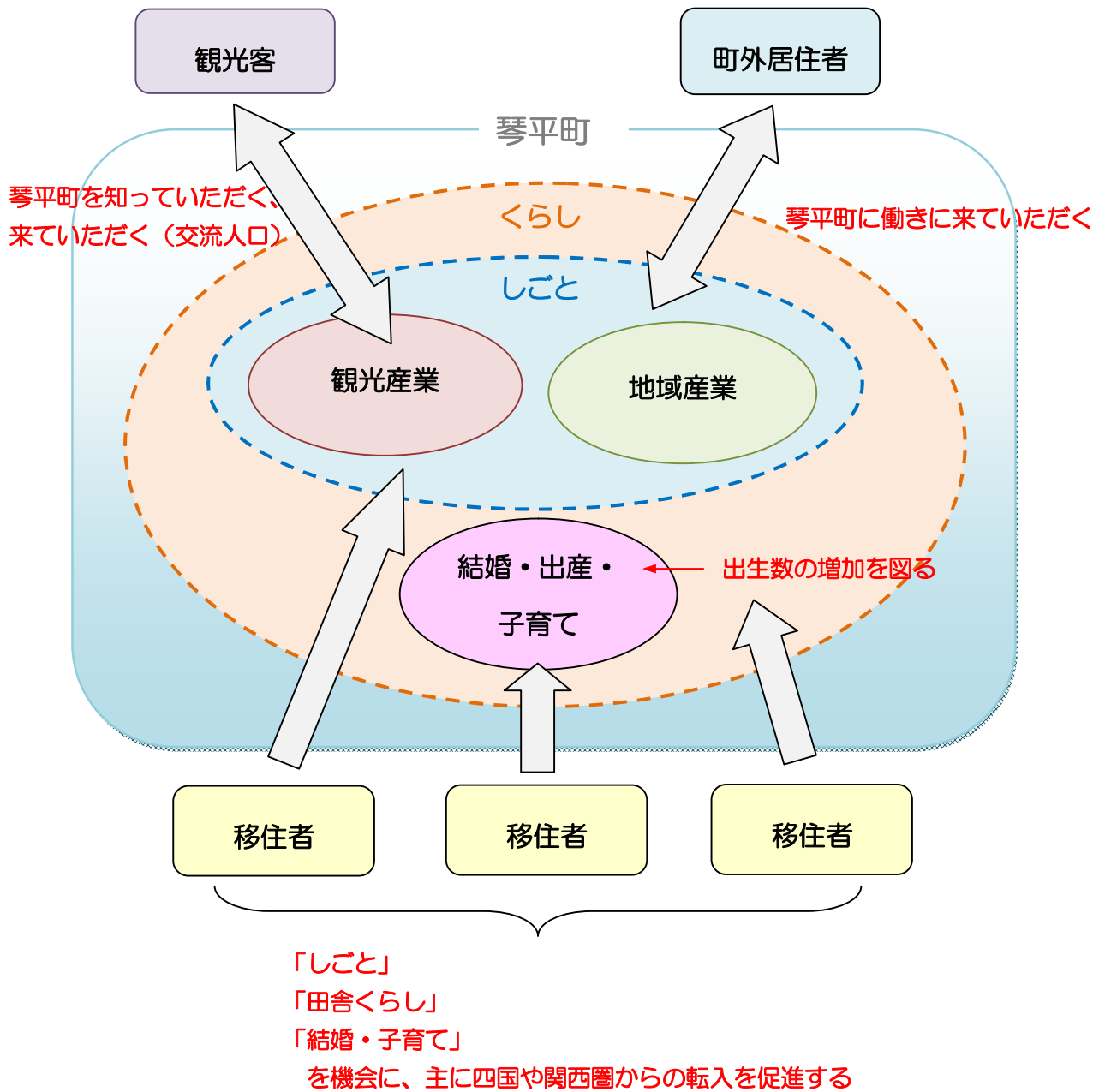
- ・琴平町に住み続けたいと思う人の割合：町民アンケートによる「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」の合計の数字。

4章 施策の基本的方向と数値目標

4.1 施策展開の方向性

総合戦略の施策展開の方向性としては、本町の特色である門前町の歴史を活かし、多くの人に本町を知っていただくとともに、来ていただくことによって交流人口を増加させることを目指します。

また、観光産業や新しく創造する地域産業を活用して働きに来ていただく人を増加させることを目指します。さらに、結婚・出産・子育てをしやすい環境を整え、子育て世代に選ばれる町を目指します。



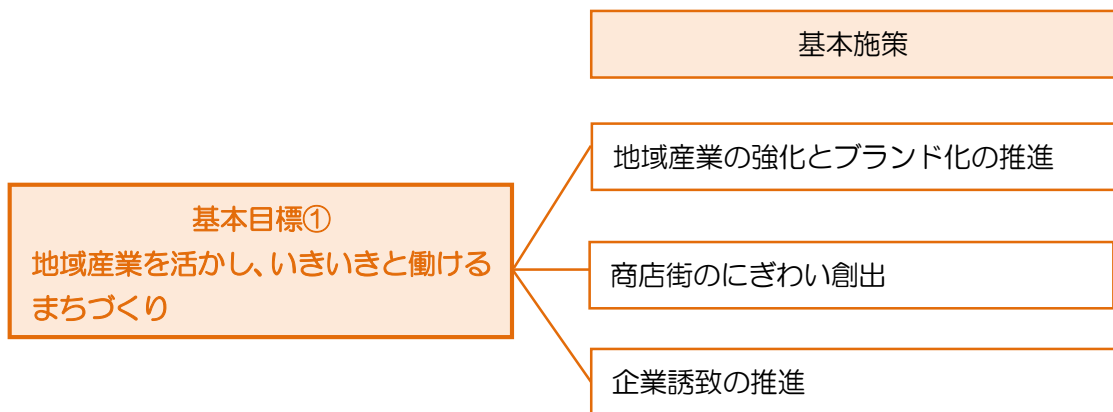
4.2 基本目標①「地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり」

(1) 基本的方向

琴平町の地域ブランドとしてより強固なものとするためにも、地域全体として一体感を持たせた地域ブランドの創造・育成を行い、年間数百万人規模の観光客が全国から訪れる金刀比羅宮の知名度を活かしながら、観光とも連携した効果的で合理的な情報発信に努めます。

また、金刀比羅宮の参詣客をもてなす観光産業および地域産業の振興を通して、起業支援などにも力を入れながら、さらなる商店街の回遊性を高め、にぎわいを創出します。

このような地域の産業振興の機運を高めるなかで、企業誘致を推進し、地域全体として安定したしごとの創造を実現します。



(2) 施策 1：地域産業の強化とブランド化の推進

全国的に有名な金刀比羅宮の知名度を活かし、「こんぴらブランド」として広く情報発信を行うと同時に、地域素材（魅力や強みなど）を活かした地域産業の創造を推進します。また、既存事業における後継者不足が問題で事業継続が困難になっている事業者が多い傾向にあることから、後継者育成に傾注し、事業者数や事業規模の維持発展に努めます。

施策 1		地域産業の強化とブランド化の推進	
KPI	目標値	基準値	
新たなブランド創出件数	5年間で5件 (H27～H31年度の累計)	—	
販売促進活動回数	年間4回(H31)	年間1回(H26)	
新規就農者数	5年間で3人 (H27～H31年度の累計)	3人 (H20～H26年度の累計)	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・技術継承者に対する育成支援 ・地域ブランドの開発及び販路開拓に対する支援 ・就農者に対する育成支援 			
事業名		事業区分	
①産業の技術継承者育成事業		新規事業	
②販路開拓及び拡大戦略事業		新規事業	
③新ブランド開発促進事業		新規事業	
④新規就農者育成事業		継続事業	

(3) 施策2：商店街のにぎわい創出

思いのある人（若者）が挑戦できる舞台を琴平町の商店街に求め、空き店舗の利用促進を視野に、新規起業者のチャレンジを応援しながら、にぎわいを生み出していきます。新規に創業を志す人々に対して、情報、資金、場所等を支援することにより、新産業の創造と新たな雇用の創出を図っていきます。また、香川県として、「瀬戸内国際芸術祭」が一定の経済効果を上げていることから、県の動きとも連携し、アートを活用したにぎわいづくりにも力を入れます。

施策2		商店街のにぎわい創出	
KPI	目標値	基準値	
空き店舗利用件数	5年間で5店舗 (H27~H31年度の累計)	—	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・アートを活用した商店街のにぎわいづくりに対する支援 ・空き店舗の利用促進に対する支援 ・若者の起業に対する支援 			
事業名		事業区分	
①こんぴら商店街アート化事業		新規事業	
②土曜デー復活事業		新規事業	
③空き店舗対策事業		新規事業	
④まちづくり活性化事業		継続事業	

(4) 施策3：企業誘致の推進

最近の円安傾向を背景に、海外に進出した工場の国内回帰や、外国企業の国内への投資に対する期待が高まっています。こうしたことを受けて、今後、統廃合等により発生すると想定される公共施設や公共用地を活用し、企業誘致への可能性等について検討します。

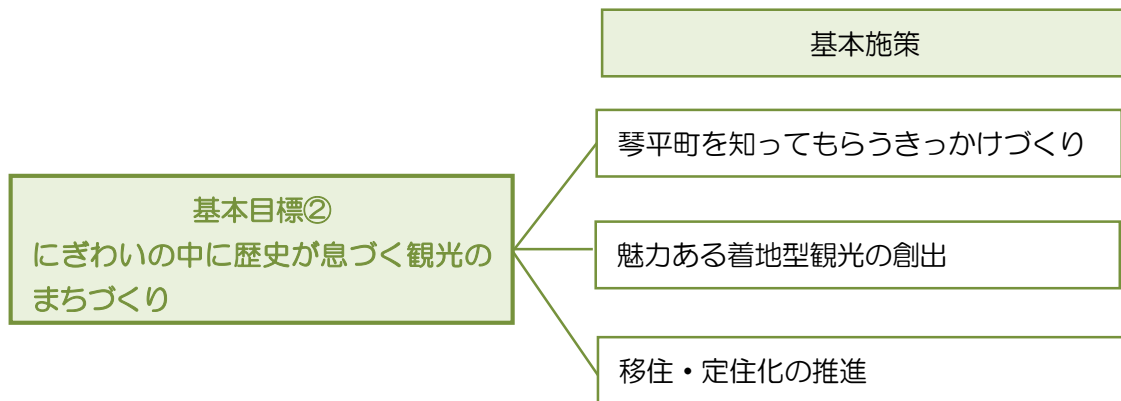
施策3		企業誘致の推進	
KPI	目標値	基準値	
公共用地・公共施設の計画的な運用に向けた計画・方針等の策定	5年間で1計画 (H27~H31年度の累計)	—	
取組内容			
・公共用地・公共施設の将来推計および活用方針の設定			
事業名		事業区分	
①公共用地・公共施設の計画的な運用		新規事業	

4.3 基本目標②「にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり」

(1) 基本的方向

琴平町は金刀比羅宮の参詣客でにぎわい、観光業を中心として発展してきた歴史を持ちます。その背景を重んじ、これからのまちづくりを見通すうえにおいても、揺るがぬ柱に据え、未来につなげていきます。

したがって、全国的に知名度のある金刀比羅宮を交流人口の核ととらえ、着地型観光の創出を行います。さらにそれにとどまらず、暮らしの情報など移住につながる情報を提供し、交流人口の増加から移住・定住人口の増加を目指します。あわせて、UJ ターンを希望する人々が安心して定住できるよう、関連する助成金を整備するのみならず、空き家対策などにも傾注し、良好な居住環境の形成を目指します。これらの施策によって地域の魅力を高め、交流から定住へと着実につなげていきます。



(2) 施策1：琴平町を知ってもらおうきっかけづくり

金刀比羅宮の知名度を活かし「金刀比羅宮のある町」という認識から琴平町を知ってもらい、来町を促し、交流人口の増加から移住人口の増加をめざします。また、四国こんぴら歌舞伎大芝居や琴平町ならではの食文化をきっかけにもっと本町を知ってもらい、移住・定住の入口となる交流人口を厚くします。

施策1		琴平町を知ってもらおうきっかけづくり	
KPI	目標値	基準値	
町ホームページアクセス件数	年間40万件（H31）	年間約36万件（H26）	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・四国こんぴら歌舞伎大芝居の開催 ・ゆるキャラ等の活用による琴平町の認知度向上に対する支援 ・地元特産品や食を通じた琴平町の認知促進に対する支援 			
事業名		事業区分	
①四国こんぴら歌舞伎大芝居公演事業		継続事業	
②こんぴら船々及びこんぴーくん普及促進事業		新規事業	
③こんぴらマルシェ deB級グルメ実施事業		新規事業	

(3) 施策2：魅力ある着地型観光の創出

琴平町の大きな資産である金刀比羅宮を観光の一つの柱として、インバウンドの人口を増やします。また、広域連携や観光客（来町者）の満足度を高める事業を通して、魅力ある着地型観光に向けてサービスの向上やモデルプラン等の創出を行います。

施策2		魅力ある着地型観光の創出	
KPI	目標値	基準値	
観光入込客数	年間350万人（H31）	年間289万7千人（H26）	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド推進の支援 ・情報発信に対する支援 ・観光客誘致および観光客の満足度を高めることに対する支援 ・瀬戸内中讃定住自立圏構想の推進 			
事業名		事業区分	
①こんぴらインバウンド推進事業		新規事業	
②ことひらWi-Fi整備事業		新規事業	
③着地型観光（DMO）推進事業		新規事業	
④こんぴら観光アプリ事業		新規事業	
⑤観光振興対策（ビジットこんぴら）事業		継続事業	

(4) 施策3：移住・定住化の推進

U・I・Jターン促進およびU・I・Jターン者の定着を促進するためには、生活支援機能の集積・充実や、廉価な費用で住宅が入手及び維持できることが求められます。

そのため、住宅取得に対する支援、空き家の利活用支援など様々な施策を多角的・総合的に実施します。また、移住・定住者の通勤の便などを図り、U・I・Jターン者が住みたくなる快適な居住環境の整備を行います。

施策3		移住・定住化の推進	
KPI	目標値	基準値	
移住相談件数	5年間で200件 (H27~H31年度の累計)	年間24件(H26)	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅建設・取得支援 ・通勤等の生活支援機能の整備 ・空き家の利活用支援 ・若者のU・I・Jターン・地元定着支援 			
事業名		事業区分	
①空き家対策事業		新規事業	
②新築住宅助成事業		新規事業	
③フレッシュマン応援事業		新規事業	
④JR・ことでの利用者への補助事業		新規事業	
⑤琴平町住宅・店舗等リフォーム助成事業		継続事業	
⑥新婚さんいらっしやい事業		継続事業	

4.4 基本目標③「結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり」

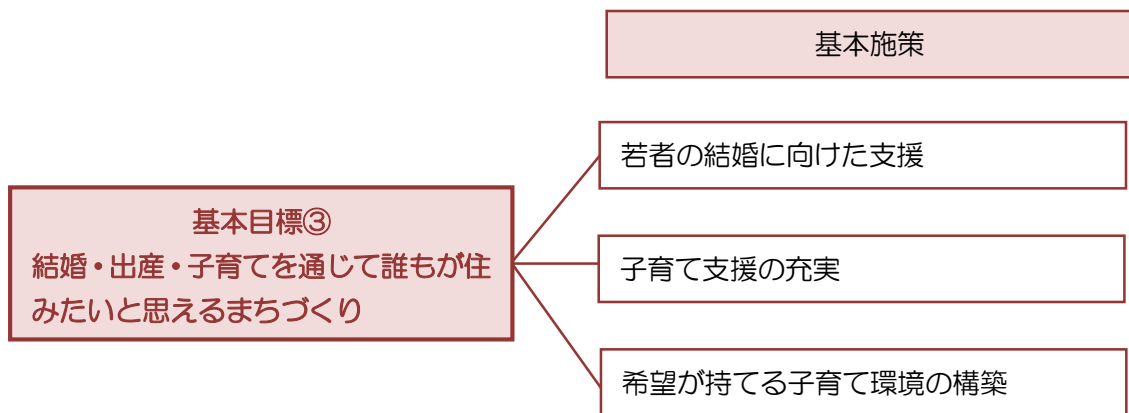
(1) 基本的方向

結婚・出産・子育てについて、若い世代の希望が無いわけではなく、希望はあるものの、実現に向けた様々な社会的困難が課題として浮上しています。

子育てにおいては、長時間労働による育児参加機会や意欲の喪失、保育園等の支援機能の不足などはその一例であるといわれています。

琴平町は、結婚に向けた男女の出会いづくり、子育てしやすい町づくりを目指し、安心して出産・子育てができる環境の構築を図ります。

これらの施策によって、誰もが安心して、希望をもって結婚・出産・子育てができる環境を整え、住みたいと思われる琴平町を実現します。



(2) 施策1：若者の結婚に向けた支援

インターネットを通じて人と人が気軽に会える時代ですが、地域社会に存在していた仲人役が少なくなり、実際に若い男女を引き合わせ、結婚までの世話をするとといった取組が減ってきています。

そのため、趣味を通じた出会いの場の演出や結婚に関する相談体制の強化・情報提供などの支援を継続するとともに、結婚を祝福し、新たな結婚生活を支援することで、町内で結婚するカップルの数が増えることを目指します。

施策1		若者の結婚に向けた支援	
KPI	目標値	基準値	
町が支援する婚活事業でのカップリング数	5年間で65組 (H27~H31年度の累計)	年間10組(H26)	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> 結婚祝金の提供 結婚に関する相談・情報提供 出会いイベントの演出 			
事業名担当部署		事業区分	
①結婚祝金事業		新規事業	
②婚活事業		継続事業	

(3) 施策2：子育て支援の充実

経済の低成長にともない、経済的な不安を一因として、出産・子育てに対して力強い未来が描けない若者が増えています。出産から子育ての各段階においてかかる費用を可能な範囲で町が支援し、経済的な不安要因を解消するよう努めます。また、これらの支援が弾みとなって、合計特殊出生率が上がる状態を目指し、安心して子どもを産み育てることのできる環境の構築を図っていきます。

施策2		子育て支援の充実	
KPI	目標値	基準値	
出生数	年間61人(H31)	年間51人(H26)	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> 出産に対する支援 子育てにかかる費用の支援 			
事業名		事業区分	
①子育て応援施設整備支援事業		新規事業	
②新生児ベビーカー助成事業		新規事業	
③出産・成長祝金事業		新規事業	
④子ども医療費助成事業		継続事業	
⑤地域活動活性化事業		継続事業	

(4) 施策3：希望が持てる子育て環境の構築

義務教育課程においては、魅力ある教育内容を定着させ、教育の充実を図ります。また、共働き世帯が多い現状において、放課後の子どもたちの安全な居場所に対するニーズも高いことから、学校教育から放課後まで、安心して子どもを育てることのできる子育て環境を構築します。

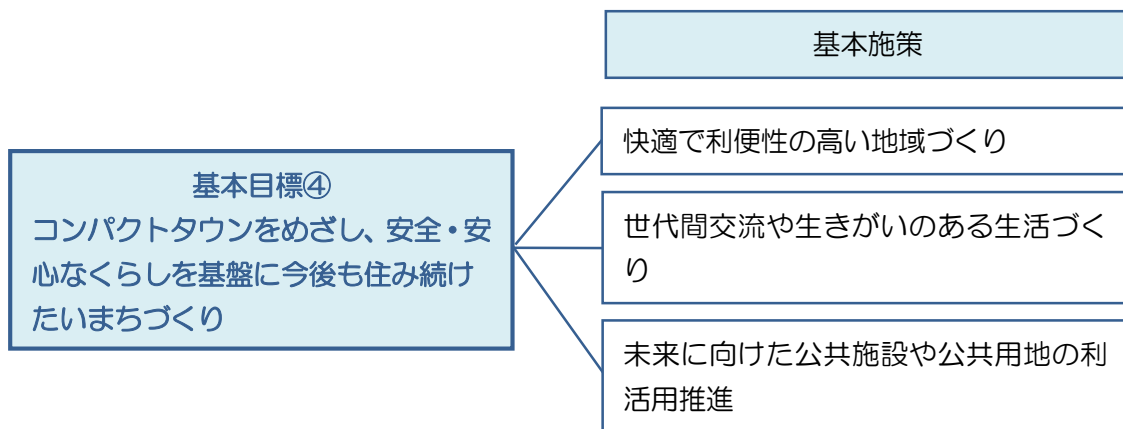
施策3		希望が持てる子育て環境の構築	
KPI	目標値	基準値	
学校教育における満足度	20% (H31)	9.9% (H26)	
取組内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後における子どもの安全な居場所づくり ・学校教育の充実 			
事業名		事業区分	
①放課後児童育成事業		継続事業	
②魅力ある義務教育創出事業		新規事業	

4.5 基本目標④「コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み続けたいまちづくり」

(1) 基本的方向

核家族化の進行等により、高齢者夫婦世帯や一人暮らし高齢者の増加等がみられる中で、年金支給額の低下、老人医療費の増加等により生活環境を維持していくことが厳しい時代となりつつあります。

本町では、コミュニティの力も活用しつつ、高齢者がいきいきと暮らせる住環境の構築を図ります。また、高齢者が安全で安心して暮らすために必要な都市機能を集約させるとともに、公共交通の便を図りながら、効率的で持続可能なまちづくりを推進します。



(2) 施策1：快適で利便性の高い地域づくり

高齢者の割合が増加傾向にあることから、高齢者にやさしいまちづくりを目指します。コミュニティバスなど、公共交通の充実を図り、お年寄りが買い物などに出ていきやすい快適性と利便性を担保します。

施策1 快適で利便性の高い地域づくり		
KPI	目標値	基準値
交通事故死亡者数	5年間で0人 (H27~H31年度の累計)	5年間で3人 (H22~H26年度の累計)
取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段が限られてしまう高齢者に対する日常生活の支援 ・再生可能エネルギーの導入に対する支援 		
事業名		事業区分
①交通安全対策事業		継続事業
②こんぴらエコシティ補助事業		継続事業
③交通弱者支援事業		新規事業

(3) 施策2：世代間交流や生きがいのある生活づくり

人と人のふれあいは、年齢を問わず、人をいきいきとさせてくれます。とりわけ高齢者が若い世代とふれあう機会を提供することは、高齢者の生きがいにつながるものです。高齢者に限らず、働く子育て世代の女性も視野に、生きる実感や喜びを感じられる生活が享受できる町を目指します。

また、世代間を超えた新たなコミュニティの形成によって、防災や子育て等の場面において、互いが協力し、助け合える環境づくりを目指します。

施策2 世代間交流や生きがいのある生活づくり		
KPI	目標値	基準値
自治会加入世帯数	2,700世帯(H31)	2,647世帯(H26)
取組内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流が生まれやすい仕掛けづくりに対する支援 ・高齢者の生きがいにつながる事業に対する支援 ・働く子育て世代の女性に対する支援 ・高齢者の移住に対する支援 		
事業名		事業区分
①地域交流スペース運営補助事業		新規事業
②働く子育て世代の女性応援事業		新規事業
③琴平町高齢者地方移住(CCRC)推進事業		新規事業

(4) 施策3：未来に向けた公共施設や公共用地の利活用推進

将来において統廃合や廃止となる公共施設について、地域の拠点となる施設整備や都市機能増進施設としての整備等を検討し、地域の魅力を高め、活力ある地域づくりを図っていきます。

施策3		未来に向けた公共施設や公共用地の利活用推進	
KPI	目標値	基準値	
公共用地・公共施設の計画的な運用に向けた計画・方針等の策定（再掲）	5年間で1計画 （H27～H31年度の累計）	—	
取組内容			
・公共用地・公共施設の将来推計および活用方針の設定			
事業名		事業区分	
①公共用地・公共施設の計画的な運用（再掲）		新規事業	

琴平町総合戦略体系図

基本目標	目標値	施策	KPI	目標値	基準値	事業名称
①地域産業を活かし、いきいきと働けるまちづくり	・就業者を増加させる 【目標値】：5,000人（H32） 【基準値】：4,786人（H22国調）	地域産業の強化とブランド化の推進	・新たなブランド創出件数 ・販売促進活動回数 ・新規就農者数	5年間で5件（H27～H31年度の累計） 年間4回（H31） 5年間で3人（H27～H31年度の累計）	ー 年間1回（H26） 3人（H20～H26年度の累計）	①産業の技術継承者育成事業 ②販路開拓及び拡大戦略事業 ③新ブランド開発促進事業 ④新規就農者育成事業
		商店街のにぎわい創出	・空き店舗利用件数	5年間で5店舗（H27～H31年度の累計）	ー	①こんぴら商店街アート化事業 ②土曜デー復活事業 ③空き店舗対策事業 ④まちづくり活性化事業
		企業誘致の推進	・公共用地・公共施設の計画的な運用に向けた計画・方針等の策定	5年間で1計画（H27～H31年度の累計）	ー	①公共用地・公共施設の計画的な運用

基本目標	目標値	施策	KPI	目標値	基準値	事業名称
②にぎわいの中に歴史が息づく観光のまちづくり	・平成31年に1年間の転入と転出の差（社会増減）を均衡させる 【目標値】：±0人（H31） 【基準値】：▲12人（H26）	琴平町を知ってもらおうきっかけづくり	・町ホームページアクセス件数	年間40万件（H31）	年間約36万件（H26）	①四国こんぴら歌舞伎大芝居公演事業 ②こんぴら船々及びこんぴーくん普及促進事業 ③こんぴらマルシェdeB級グルメ実施事業
		魅力ある着地型観光の創出	・観光入込客数	年間350万人（H31）	年間289万7千人（H26）	①こんぴらインバウンド推進事業 ②ことひらWi-Fi整備事業 ③着地型観光（DMO）推進事業 ④こんぴら観光アプリ事業 ⑤観光振興対策（ピジットこんぴら）事業
		移住・定住化の推進	・移住相談件数	5年間で200件（H27～H31年度の累計）	年間24件（H26）	①空き家対策事業 ②新築住宅助成事業 ③フレッシュマン応援事業 ④JR・ことでんの利用者への補助事業 ⑤琴平町住宅・店舗等リフォーム助成事業 ⑥新婚さんいらっしやい事業

基本目標	目標値	施策	KPI	目標値	基準値	事業名称
③結婚・出産・子育てを通じて誰もが住みたいと思えるまちづくり	・合計特殊出生率を上昇させる 【目標値】：1.60（H31） 【基準値】：1.50（H20～H24）	若者の結婚に向けた支援	・町が支援する婚活事業でのカップリング数	5年間で65組（H27～H31年度の累計）	年間10組（H26）	①結婚祝金事業 ②婚活事業
		子育て支援の充実	・出生数	年間61人（H31）	年間51人（H26）	①子育て応援施設整備支援事業 ②新生児ベビーカー助成事業 ③出産・成長祝金事業 ④子ども医療費助成事業 ⑤地域活動活性化事業
		希望が持てる子育て環境の構築	・学校教育における満足度	20%（H31）	9.9%（H22）	①放課後児童育成事業 ②魅力ある義務教育創出事業

琴平町総合戦略体系図

基本目標	目標値	施策	KPI	目標値	基準値	事業名称
④コンパクトタウンをめざし、安全・安心な暮らしを基盤に今後も住み続けたいまちづくり	・琴平町に住み続けたいと思う人の割合を上昇させる 【目標値】：65%（H31） 【基準値】：57.9%（H22）	快適で利便性の高い地域づくり	・交通事故死亡者数	5年間で0人 （H27～H31年度の累計）	5年間で3人 （H22～H26年度の累計）	①交通安全対策事業 ②こんぴらエコシティ補助事業 ③交通弱者支援事業
		世代間交流や生きがいのある生活づくり	・自治会加入世帯数	2,700世帯（H31）	2,647世帯（H26）	①地域交流スペース運営補助事業 ②働く子育て世代の女性応援事業 ③琴平町高齢者地方移住（CCRC）推進事業
		未来に向けた公共施設や公共用地の利活用推進	・公共用地・公共施設の計画的な運用に向けた計画・方針等の策定（再掲）	5年間で1計画 （H27～H31年度の累計）	—	①公共用地・公共施設の計画的な運用（再掲）

5章 総合戦略の管理

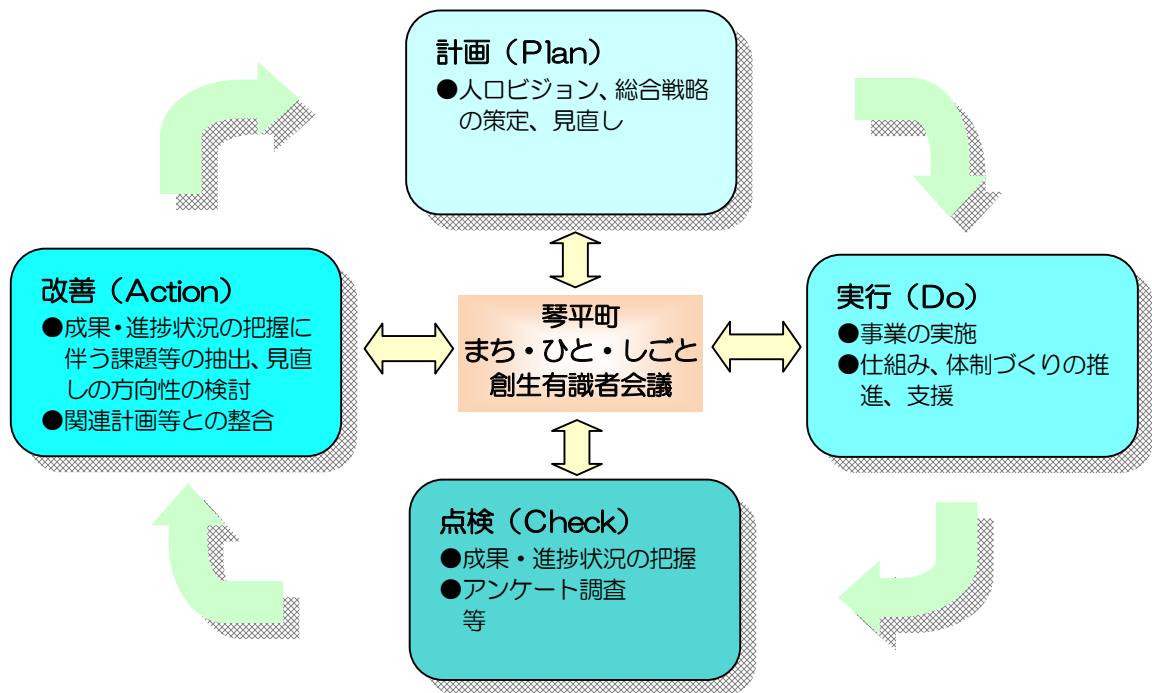
5.1 管理の考え方

総合戦略は、5年後を見据えた計画であることから、短期間の間に確実に実行していくことが必要です。そのため計画（Plan）、実行（Do）、点検（Check）、改善（Action）といった一連のサイクルを確立し、これらを確実に実行し、総合戦略を推進していくものとしてします。

そのためには、琴平町まち・ひと・しごと創生有識者会議と連携を図りながら、PDCAサイクルを実行するものとしてします。

なお、必要に応じて「地方創生コンシェルジュ制度」を積極的に活用し、具体的な事業実施等における情報やアドバイスを得ることによって、円滑な事業実施に努めます。

人口ビジョン、総合戦略のPDCA



5.2 管理体制

総合戦略に掲げる事業を担当する部署は庁内各課にわたることから、関係課を一堂に会した進捗状況の報告会等を定期的を開催することとします。

また、毎年、施策におけるKPIの達成状況を確認するとともに、琴平町まち・ひと・しごと創生有識者会議にて報告することとします。

名称	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
庁内連絡会		☆	☆	☆	☆	☆
有識者会議（定期報告会）		○	○	○	○	○